

2020年12月 3号 関電疑惑を許さない! いのちを守る教育を! 平和憲法を護る!



## コロナ対策停滞、プール完成2022年

「教育現場は、コロナ対策で消毒なんかで大変なんだ」と。長良小学校のプール建設記事が掲載されて、市民から電話です。4月からですと9カ月経過し、プール建設がようやく(再)決定しましたが、厳しいコロナ対策の現場の意見は「建設の結果」は良いとしても、「行政の停滞」へのお叱りが大きいようです。

プール建設の工期は「10カ月は掛かる」との事で、子ども達が泳げるには、早くても2022年の夏になりそうです。子ども達の心に不安と、不審を植付け、公民館関係をはじめ住民説明会で、多くの不審を市民に抱かせた責任は何処にあるのでしょうか。

**岐阜新聞** いじめと向き合う【第3部】当事者たちの本音⑩ 12月18日記事  
傷癒えず26歳で自死 娘失った父親 後悔の日々

## 原因の一 配付されなかった教科書と・・・ 遺族の父親と面談 松原のりかず

お父さん(68歳)には、12月7日の本会議質問の以前から電話を頂いていました。電話では19年7月3日中学3年生自死事件以来の「いじめに関する」松原のりかず議会質問を聞いて頂いていたとの事。12月19日にお会いすることになりました。岐阜新聞記事掲載になる前から手紙を頂き、10年前の娘さんの自死の経過をお聞きしていました。経過は、概ね岐阜新聞記事の内容と同様です。

お父さんは「娘の自死の原因である、いじめを含め全てを忘れようとして来た」が、「2019年の中学3年生の転落自死」を知って、「娘のこと〔事件〕を思い出し、いじめの事実を、何があったのか知らなければ」と思うようになった。との事でした。教育委員会へは事実確認に出向いたが「わからない」との回答であった。と・・・。

「いじめ」の原因の一つとなったのが、「転校(当時、父親は国家公務員で転勤)で、岐阜市に来て教科書が違って、配布されるべき教科書が配布されず」隣の同級生に見せてもらおうとしたら「冷やかされ」から「いじめ」につながり、不登校、から自死に。もしそうなら、『配付されなかった教科書』は何処に責任があるのだろう。

お父さんは、「にた記事で、こんな記事があります」と、2000年3月6日の朝日新聞記事を持参。各務原市の小学校で「両親が自費で購入」「市教委が指導、学校謝罪」の記事を示し、「各務原市教育委員会は学校を指導しているのに」と・・・。(うら面へ)

連絡先 岐阜市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

# 「学校は、いのち賭けて行く所でない」？！

## 早川教育長発言で、遺族と意見交換

### 「皆に安全な学校作る」のが

岐阜新聞 18日「いじめ遺族」記事のお父さんと、意見交換出来ました。早川教育長の発言「学校は、いのち賭けて行く所でない」について、娘さんが、「いじめ」にあい不登校となり、後に自死されましたが、このお父さんは語られた。

「早川教育長は、加害生徒の教育権について、口にされる。では、被害にあい不登校になった被害生徒の教育権はどうしてくれるのでしょうか。」「加害生徒が毎日通学し、被害生徒が学校に行けない事態は異常でしょう。」「いのちを賭けなくても、行ける良い学校を作るのが教育であり、いのちを賭けて行く所でない」と発言する前に、教育者として皆に安全な学校を作るのが、第一義の仕事では。」「早川発言は評論家的で、現場教育者、とりわけ教育長としての発言として、理解出来ない。」と。

お父さんには「去年のいじめを原因とする中学3年生転落自死」の第3者委員会の報告書を、岐阜市ホームページに掲載しようとしないうる岐阜市教育委員会の頑なな態度についても報告する事になりました。

## 大事にしている「けやき並木」記事に感謝 まちづくり協

中日新聞 12月21日号に「格式ある都市の象徴」見出しで、本郷「けやき通り」の記事を掲載頂いた。記事に、安田会長さんをはじめ、本郷まちづくり協議会の皆さんは感謝です。12月20日で本年の「けやき清掃作戦」は終了しましたが、11月22日からの清掃には「まちづくり協議会」の他に多くの市職員さん等協力をお願いできました。本年は、「緑の都市賞プレート」の除幕式もあり「けやき通り」を見直す機会ともなりました。来年は、「コロナ」が無くなり「けやき祭り」に多くの市民が集まれることを願います。

## コロナとたたかう 復活のおせち料理

岐阜新聞 12月21日号を開いたら、どこかで見たような写真拝見。お邪魔する事のある春日町「うお義(よし)」さん御夫婦では。見出しは、「危機を希望に おせち復活」 「宴席途絶えた老舗料理店、挑戦の年末」「30年ぶり、反響に感謝」と、記事は「苦境は、バブル崩壊、リーマンショックの比ではない」とつづく。「店を閉じる老舗仲間が増えてきたが、諦めるのはまだ早いと、コロナ禍に立ち向かうことを選んだ」(真弓さん) 以前の議案精読で料理店の声を語った記憶。「うを義」でんわ 262-0382



松原のりかず  
☎058-253-2500